

かんがい用水による防除の省力化とうめ剪定枝の有効利用 ～廣村 勝利氏～

経営体の概要

農業従事当初：平成元年頃
基幹作物：うめ、水稻
経営面積：うめ0.6ha、水稻1.4ha

現在：令和5年
基幹作物：うめ
経営面積：2.8ha

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

- 天水や谷水等の不安定な水源にたよっていた。
- 畑地かんがい施設が未整備で、農業の近代化が図れなかった。



島ノ瀬ダム工事前



辺川頭首工改修前

【事業実施後】

- 前歴事業（昭和48年度～平成7年度）で、島ノ瀬ダム等の新設、辺川頭首工の改修で、水源を確保。関連事業等において支線用水路の敷設やスプリンクラーを設置し、畑地への散水や防除等に使用でき省力化が図られた。
- 本事業で老朽化した施設の改修等を実施することで引き続き農業用水を安定供給。

営農改善、経営転換等のポイント

①省力化

国営土地改良事業等により農業用水が安定的に供給されたことで、スプリンクラーによる防除が可能となり、人力で散布していた時の労働時間は、1回当たり4時間/40aだったものが、スプリンクラーだと15分/40aと大幅に短縮された。

また、うめの選別については、選果機を導入しており、サイズ選別の時間短縮と労力の軽減が図られている。



スプリンクラーかん水

②栽培技術による品質・収量の向上

うめのかん水は春先に実施し、うめの実を太らせることに寄与。このかん水がのちの収量増に繋がっている。また、夏季にも樹勢をよく観察し、適期・適量のかん水を行うことで樹勢の維持を図り、来年度の収量の確保にも貢献。



南高梅

③流通・販売の工夫

うめの実は塩漬けの一次加工をして地元加工業者に卸している。剪定したうめの枝について、これまでは廃棄するための処分費に苦勞していたが、剪定した花芽のついた枝をJAの出荷規格にあわせて切り揃え、正月用の飾り花の「ズバイ」としてJAに出荷することで新たな収入源となっている。

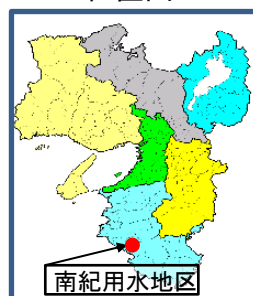


ズバイ

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：和歌山県田辺市及びみなべ町
受益面積：1,790ha
事業期間：昭和48年～平成7年
事業目的：用水改良、畑かん 等
主要工事：ダム1箇所、頭首工改修1箇所、
用水路L=27.9km、揚水機改修4箇所

位置図



<問い合わせ先>

近畿農政局
農村振興部農地整備課
電話：075-451-9161
(内線2528)

(令和6年度調査時点)